

多様な武道等指導の充実 武道推進モデル校 事例報告

<h3>少林寺拳法・柔道</h3> <p>基本動作・剛法や柔法などの基本技や柔道の基本動作・受け身を通して日本の伝統的な考え方、行動の仕方について学ぶ授業の展開</p>	<p>宇部市立上宇部中学校</p> <p>電話番号 0836(31)1369</p> <p>メールアドレス kuj@ube-ygc.ed.jp</p>
--	---

●実践研究のねらい

- 少林寺拳法から柔道へとつながる複数種目の武道指導を計画し、受け身や足さばきなどの基本動作は共通点に気付かせながら、技の指導では、基本動作である構え、突き、蹴り、受けによる剛法や柔法などの基本技を習得する。明確な約束がある少林寺拳法から、柔道へとつなげることで、日本の伝統的な考えや行動の仕方について理解させ、基本技の指導の充実を図る。
- 外部指導者の活用について、効果的な教師との役割分担を模索すること、限られた単元計画内における外部指導者からの指導内容を精選すること、安全を確保した指導体制を確立することを目指す。

●多様な武道の指導モデル 第1学年（4学級133名）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
少林寺拳法				柔道										
オリエンテーション (空手道)	導入(あいさつ、伝統的な行動の仕方、健康観察、本時の学習の見通し)													
	準備運動			基本動作の学習		準備運動、基本動作と受け身の練習)								学習のまとめ
	(構え、受け)	基本動作の学習		受け身の学習		固め技の学習				投げ技の学習				
		剛法相対	柔法相対	(後ろ受け身 横受け身 前受け身 前回り受け身)										
	整理(整理運動、本時の振り返り、次時の連絡、あいさつ)													

●指導の工夫

- 1 効果的に指導するための工夫
 - 指導内容の精選
限られた時間内で生徒が達成感を味わうことができるよう、指導内容の精選を図る。
 - 生徒の視覚的な理解を促す資料の充実
映像や掲示物などの資料を充実するとともに、資料を活用した協働的な学習場面を設ける。
- 2 生徒の安全を確保するための工夫
 - 安全な運動の行い方の理解
オリエンテーションや外部指導者より安全な運動の仕方について説明を受ける場を設ける。
 - 単元を通した受け身の学習
柔道では畳の上で間隔を開けて練習する場を設けるなど、安全に取り組める工夫をする。

●授業の様子



【 基本動作 】

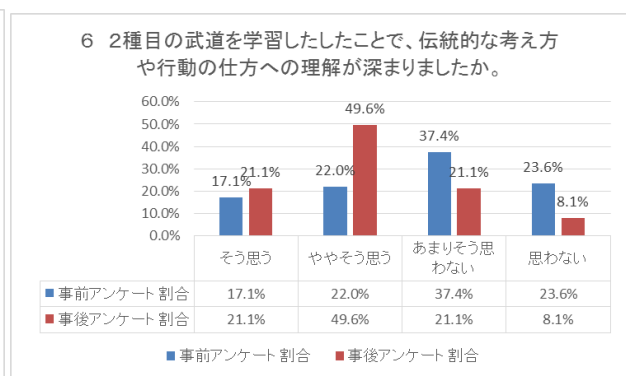
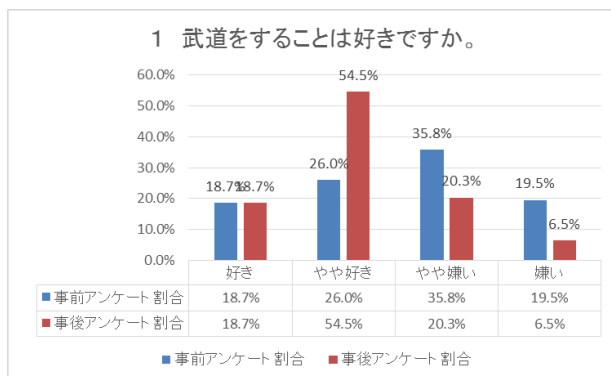
外部指導者の見本を見ながら、構え、突き、蹴り、受けを繰り返し練習し、意欲的に取り組んだ。



【 剛法 上受蹴 】

十分に間合いを取り、突きや蹴りを当てないようにするなど、安全に練習に取り組み、少林寺拳法の特性を十分に味わえた。

●生徒の意識、感想、変容など



●成果と課題

- 少林寺拳法から柔道につなげた学習は、礼儀作法の基本的な動作を身に付けることにより、柔道の授業でも「礼」に始まり「礼」に終わる態度を自然と意識できるようになった。また、自分と相手と呼吸を合わせて技を成功させようとする態度が多く見られるようになった。
- 少林寺拳法の「構え、突き、蹴り、受け」の基本的動作で互いに約束の中で「剛法」や「柔法」の基本技に取り組んだことで、生徒はわかりやすく安全に活動することができた。意識調査の結果から、大半の生徒が複数武道の学習を肯定的に捉えている。外部指導者の指導を取り入れることで、武道の本質に触れ、武道への関心を高めることができた。また、的確な指導、安全な武道の授業を展開することができる。武道特有の動作が難しい生徒もいるため、個に応じた支援が必要になる。支援体制、指導方法を更に工夫していく必要がある。
- 少林寺拳法においては、外部指導者の存在は大変重要である。専門性が高く、授業で教員は生徒の安全管理に終始してしまう状況もあったため、教員研修を進めることと外部指導者との役割分担や連携を明確にした指導計画について、引き続き検討していく。
- これまでの柔道10時間の指導計画に少林寺拳法3時間を加えて単元計画としたが、少林寺拳法は、あと2時間程度増加できると学習がより深まると考える。そのためには、武道のうちで調整するか、他領域と調整することが必要となるが、各種目に必要な時間数を確保しながらの時間の捻出は課題となる。